

お酒は「百薬の長」になってこそ、効果を発揮する



年が明けて早1ヶ月が経ちました。皆様におかれましては、年頭の目標をちゃんと実行できていますか？その時その日1日の積み重ねが、1ヶ月、1年、一生を作り上げることになるのですから、どうか年頭に掲げた自分の目標を目指し、我欲との戦いを制してほしいものです。しかし掲げた目標から寄り道もせず、目標を達成する事はなかなか難しいもの。目標というのは難しいからこそ、目標になるわけで…。

1つ例をあげれば、檀信徒の皆さんの中には、「今年こそは、大好きなお酒を控えるぞ！」と心に堅く誓った方もおられるかも知れません。しかし正月の1ヶ月間と言えば、「新年会」が付きものです。お酒と、やけに親しくなってしまう事もしばしばでしょう。かく言う私は、普段はあまりお酒とは縁がないのですが、やはり1年を通して、1番お酒と仲

良くなるのが正月の1ヶ月間です。色々な会の新年会に行つては、グラスを傾けました。酒を飲むことで、普段は気が付かない、その人の良いところも見えたりする利点があるものです。

真成寺でも、1月24日に寺族だけで「新年会」をしました。住職はじめ、母親、姉、妻、愛娘、そして私の6人という、気心の知れた家族だけで飲むお酒は、なんとも格別の味がするものです。その「新年会」では、住職と2人、普段はお酒を酌み交わすこともない私達ですが、その時ばかりは、住職と副住職ではなく、父と子という立場に戻つて、お互い肩を抱きながら楽しく語り、美味しい食事を頂きました。これなら普段でも、たまにはお酒を飲みながら語り合うのもいいなあ…と思つた次第です。

さて、「酒は百薬の長」とは『漢書』という書物にある文句ですが、要するにお酒は数ある薬の中でも最高の薬である、酒に勝る薬はない、という意味ですよね。じゃあどこに効く薬なのか？私が思うに、「精神に効く薬」という事になるのではないかと思ひます？普段は、お互いの立場、あるいは心の中で考えていること、またストレスになっている事なども、お酒を飲む

事で、素直に心の内を表現する事も出来たりします。確かに「百薬の長」とは言い得て妙です。また「酒を飲むは樂を以て主とす（酒を飲む時は楽しむことが第一とする）」と、莊子が語っているように、楽しむために飲む酒は最高に美味です。愚痴つてばかりいても楽しいものではありません。『小学』という古典では、酒について「狂樂にして佳味にあらず。能く謹厚の性を移し、化して凶険の類となす（酒は氣を狂わせる水であつて決して美味いものではない。酒によって慎み深い人情に厚い者も、邪な人間に変わつてしまふ）」とありますから、酒というのは百薬の長でもあれば、自分の人格（信用）をも疑わせてしまうことにもなりかねません。まさに諸刃の剣と言えましょう。『論語』にも「酒の困みをなす（酒を飲んでもほどほどにして乱れないようにしなさい。ひどく酔うほどに飲まない）」と戒められていますから、やはりお酒を飲むにしても、適度に目標を決めて、楽しい酒を飲みたいものです。

ところで真成寺の「新年会」の話に戻りますが、酒が入り、ほろ酔い気分になってきたところで、皆が天花（愛娘）に語りかけたり、抱っこしたり、

食事を口に運んであげたりしていました。やっぱり「子供つてのは可愛いもんだなあ…」と思ひながら、その光景を眺めていると、住職や母が天花をあやしている光景が目飛び込んできました。ぼんやりその光景を眺めていると、不意に涙が溢れてきたのです。「ああ、自分もこういふ風に愛情タップリで育ててくれたんだろうなあ…ありがたいなあ…」という思いが頭の中に浮かんできたからです。私自身、両親にはいつも感謝しているとはいえ、身近にいるからこそ当たり前になつて、普段はなかなか気が付かない事も多々ある様に思ひます。今回の事で、改めて両親への、家族皆への感謝の気持ち（を）を新たにすることが出来ました。そういう意味で、真成寺の新年会のお酒は、私にとってまさに「百薬の長」となりました。

私達は、とかく受けた恩というものを忘れがちになります。「借りた傘、雨があがれば邪魔になる」・「成功すれば、受けたご恩が邪魔になる」・「恩を受けて、恩を忘れ、恩に報いるに、仇をもつてす」・「喉元過ぎれば熱さを忘れる」等々…という古諺があります。

私達は誰しも、自分さえ良ければよいという『悪い我欲』を備えています。その時だけ有り難い、嬉しい、このご恩は一生忘れないと思つていくけど、時が経つにつれて忘れてしまい、その事を当然の事のように思い、しまいには、恩になつた人を邪魔者に思つてしまふ事だつてあります。私達はお互いに助け合つて、生かし合つていることを考えれば、たとえ結果はどうあれ、その善意に対してどこまでも感謝しなくてはなりません。そうであるからこそ、「感謝」と「報恩」を私達の生活の根本にしなければなりません。そしてそれが家族を明るくし、周囲を明るくし、社会をイキイキしたものに成長していく事ができる根源でもあるのではないのでしょうか？

先月号で「健康」には「体」と「心」という2字が隠れて付いている、という話をしました。『**健体康心**』です。『**心康らかなれば、体健やかなり**』という事でした。心を落ち着かせ、静かに養うならば、自然と体が健やかに保つて出来る。だからこそ心に基点を置いて、その心を持ちようが何よりも大切で、と説明させて頂きました。心を整えな

ければ、恩に報いる（報恩）ことは出来ません。何故なら、それに気が付くことができないからです。「気が付く」ことが出来ないで当たり前と思つていると、感謝なんてできるわけがありません。私達は普段の生活の中で、本当は忘れてはいけない、感謝して生きなければいけない事を、さも当たり前のように考えて、本当に大事な事を忘れてしまつていく事が、実は多々あるのではないのでしょうか？心に栄養を与える「南無妙法蓮華経」を、心の柱にした信仰生活を充実させて、「当たり前のこと」に、気が付く「心つくり」に専念していただければ幸いです。当たり前前の事に、気が付くことが出来る、感謝することが出来る人のみが、自分を**幸せにする事が出来るのです。**

まだまだ今年も始まつたばかりです。どつか、お酒を酌み交わす機会があれば、「感謝」と「報恩」の気持ちを抱きつつ、百薬の長としての薬の効果を發揮していただきたいと思います。

合掌

副住職 谷川寛敬

副